

## 28Q-am084

光学式自動読取りシステムを用いた OSCE 業務の効率化

○林 秀樹<sup>1</sup>, 井上 和幸<sup>1</sup>, 尾上 誠良<sup>1</sup>, 谷澤 康玄<sup>1</sup>, 並木 徳之<sup>1</sup>, 賀川 義之<sup>1</sup>,  
伊藤 邦彦<sup>1</sup>(<sup>1</sup>静岡県大薬)

【目的】6年制薬学教育においては、長期実務実習実施前に技能確認として、客観的臨床能力試験（OSCE）が実施される。OSCE では、評価者が短時間に用紙に評価を書込み、OSCE 実施後は膨大な評価表を正確に採点する作業が必至である。我々は、光学式自動読取り評価表を作成し採点作業の短縮を試みた。

【方法】評価表の作成は Microsoft Word を用いた。普通紙にレーザープリンタで印字した評価表を作成し、80人の学生を対象とした OSCE トライアルで使用した。評価表への書込みについては、ボールペンを用いて評価欄にレ点を記入した。OSCE トライアル終了後、パソコンに接続した自動原稿送り装置付スキャナで評価表を読取り、市販の光学式マーク認識（OMR）ソフトを用いて採点した。読取りは、e-文書法に基づきカラー解像度 400dpi で行った。読取りと認識にかかった時間を、従来の手作業による入力作業時間と比較した。また、評価表読取りおよび採点の精度の検討を行った。自動読取後の評価表は、目視で再確認した。

【結果】スキャナによる読取り時間は、評価表1枚あたり約8秒、OMRソフトによる認識時間は、1枚あたり約2秒であり、手作業と比較して著しく短縮された。検出された認識エラーは、1枚あたり0.13件であった。主なエラーとしては、レ点無し、評価の修正、レ点箇所の大きなずれであり、自動検出されなかったエラーは0件であった。

【考察】OMRは従来からマークシートとして利用されることが多いが、OSCEの評価においては、短時間で多くの項目を記入する必要がある、マーク方式は不向きである。今回、市販の OMR ソフトを利用した簡便で安価な方法を用いて、評価表の様式をほとんど変更することなく、OSCE 採点業務の効率化を可能にした。